秋田県文化財調査報告書第46集

新秋田空港周辺遺跡分布調査報告書

1 9 7 7. 3.

秋田県埋蔵文化財センター

秋 田 県 教 育 委 員 会

序

新秋田空港は秋田県河辺郡雄和町椿川地区に建設が決定し、昭和49年10月から工事が始まっています。これまで2年次にわたり、隣接地の周知の遺跡の調査を行ないましたが、本年度は工事施行予定区域及び隣接地の遺跡の所在を確認するために分布調査を実施しました。

工事施行予定区域内には遺跡は発見されませんでしたが、隣接地からは8ヶ所の遺跡が確認されました。本報告書が今後、椿川地区の遺跡の調査と性格解明の手がかりになれば幸いです。最後になりましたが、調査を担当されました各調査員並びに調査にご協力下さいました河辺郡雄和町教育委員会の方々に深く感謝の意を表する次第です。

昭和52年3月

秋田県教育委員会

教育長　畠山芳郎

秋田県埋蔵文化財センター

目　　次

序

1.　調査に至るまでの経過 …… 1

2.　地形と分布遺跡 …… 1

(1)　河辺郡雄和町の遺跡 …… 1

◦　湯の沢遺跡 …… 1

◦　山田遺跡 …… 3

◦　中田遺跡 …… 3

◦　中村遺跡 …… 3

(2)　河辺郡河辺町の遺跡 …… 3

◦　七曲台遺跡 …… 3

◦　井戸尻遺跡 …… 3

◦　上野台遺跡 …… 4

3.　まとめ …… 4

挿図　1 …… 2

〃　2 …… 5

〃　3 …… 5

図版　1 …… 6

〃　2 …… 7

〃　3 …… 8

〃　4 …… 9

新秋田空港周辺遺跡分布調査報告書

1. 調査に至るまでの経過

昭和48年に河辺郡雄和町の出羽山地内に決定した「新秋田空港」は、昭和49年度から空港関係工事のための取竹道路、拡幅道路工事がはじまり、昭和50年度はこの道路に近接する石坂上遺跡、鹿野戸遺跡の緊急発掘調査が行なわれた。

昭和51年度になると、この空港工事と周辺の出羽山地域に立案計画のされていた開田事業、通常砂防事業、緊急粗飼料増産総合対策事業等が活発化し、より広範囲の精緻な遺跡分布調査を行なう必要が生じてきた。このため左記のメンバーが調査を委嘱され、雄和町、河辺町担当の文化財保護指導員菅原俊行氏と雄和町教育委員会社会教育係長佐々木金也氏の同行を得て分布調査に当ったものである。

分布調査は、出羽山地上の空港予定地からくだる取付道路周辺と、開発事業の地域を中心に、遺物の表面採集と住民情報によって行った。しかし、遺物散布の確認しやすい畑地などの開かれた所は少なく、大部分は遺跡調査の困難な草地、林、荒蕪地であるため、遺跡存在の確認ができなかった地域には、今後の注意が必要であると考える。

○ 調査期日　9月23・4・5・6日、10月9・10日

○ 調 査 員　伊藤種秋、岩見誠夫、永瀬福男

○ 調査事務担当者　秋田県教育庁文化課

2. 地形と分布遺跡

挿図1に記名の遺跡は、分布調査によって新たに発見した遺跡である。

調査地の範囲は雄物川とその支流の岩見川に狭まれた地域で、約48平方キロメートルの広さを持っている。

雄物、岩見両河岸には狭長な平地が存在し、集落の大部分はそこに所在する。また、調査主目的地の出羽山地の縁部には数段の段丘が見られ、これは岩見川流域に顕著である。そして周知の遺跡の多くはこの段丘縁に位置している。

(1) 河辺郡雄和町の遺跡

○ 湯の沢遺跡（平沢字湯の沢73）

旧石器時代、弥生時代（挿図 2、3、図版 1、4）

寺村部落の東方に位置する標高80メートルの段丘縁の農道、畑地、松林にかけて所在する。この遺跡の西端に段丘の斜面を迂回して段丘内奥にある開拓地三替沢に至る農道が開削されており土器、石器はこの農道を作った際に生じた排土中から発見された。また土器、石器の発見された

挿図1.　新秋田空港周辺地形図

縄文土器散布地（1. 石坂上遺跡　2. 鹿野戸遺跡　3. 紬ノ沢遺跡　7. 風無台A遺跡）

土師器、須恵器散布地（4. 平沢遺跡　5. 石田遺跡　6. 妙法遺跡）

場所の反対側の崖状をなすローム層の断面に上層から続く径約40センチ、深さ70センチの袋状のピットも発見された。

採集された挿図２の(1)～(4)の石器は旧石器時代のものである。(1)(2)はナイフ型石器で、(3)はスクレパーである。(4)はグレパーと思われる石器である。石質は(1)(3)(4)が硅質頁岩で、(2)は硬質頁岩である。

土器は弥生時代のもので、型式的には県内では志藤沢式に入るものであろう。挿図３の(1)は口縁部がくの字に外反するもので、器の表面の最上位に縄文があり、その下位にはやや斜行する櫛目状文が施文され、三条の沈線の下には斜行縄文が見られる。胎土、焼成とも割合良く器の表面には黒色の炭化物の付着が認められる。(2)(3)(4)は刺突文のあるもので、(2)の沈線間の二段の刺突文は、先尖が鋭角状の工具によるものである。(5)(6)(7)(8)(6)は沈線と縄文の施文されたものである。いずれも土器の表面に黒色の炭化物の付着の認められるものである。(1)を除いた土器の胎土中には大粒の石英砂が含有されている。挿図２の(5)の石鏃はこの土器に伴うものであろう。

○　山田遺跡（石田字山田49）

平安時代（図版１）

南北に水田を控えた部落背後の山地に地続きの畑地である。水田に近い南側で須恵器小片を採集したが、住民情報によるとかってこの畑地はブルドーザーで押土をした所とのことなので一部を試掘した。その結果、地山はブルドーザーで削平されており、須恵器片を包含していた土層も攪乱されていることから、遺跡の殆んどは破壊されていると見られる。

○　中田遺跡（平尾鳥字中田）

縄文時代（図版４の(6)）

南面する部落背後の台地の斜面で、一部果樹を植えた畑地からなる。調査の際は遺物を採集できなかったが、かつて出土した図版４(6)の石匙一個が種平小学校に保管されている。

○　中村遺跡（平尾鳥字中村48）

縄文時代（図版１）

部落の中ほどにある南面する舌状台地で、現在は杉林になっている。植林以前は畑地で石鏃、縄文土器が出土したと伝えられている。

(2)　河辺郡河辺町の遺跡

○　風無台Ｂ遺跡（松淵字風無台118、120）

縄文時代（図版２）

すぐ下を岩見川の流れる北面した標高40メートルの段丘上の畑地である。散布土器は細片であるが、包含層と考えられる黒色土層はかなり厚い。

○　七曲台遺跡（戸島字七曲台87）

縄文時代（図版２）

風無台B遺跡と地続きの段丘縁の畑地である。縄文のみの土器片の散布がある。

○ 井戸尻台遺跡（戸島字井戸尻台40、41）

縄文時代（図版３）

南北と東の三方を松林に囲まれ、北に開口した畑地で、もろい縄文土器片と土器底部が採集されている。遺物の散布は少ない。

○ 上野台遺跡（A遺跡―戸島字上野台116～119）

（B遺跡―　　同　　141）

平安時代（図版３、４）

A遺跡とB遺跡に分かれる。A遺跡は、いわゆる上野台段丘の先端部の畑地で、岩見川と戸島部落を見おろす位置にある。図版４の⑳の土器片は底部の切り離しが回転糸切による須恵器杯の破片で同時に同図版⑯～⑲の土師器小片が採集されている。

B遺跡は、A遺跡より200メートル程段丘内奥に入った地点にある高圧送電鉄塔の手前の畑地一帯である。土師器小片の散布がある。

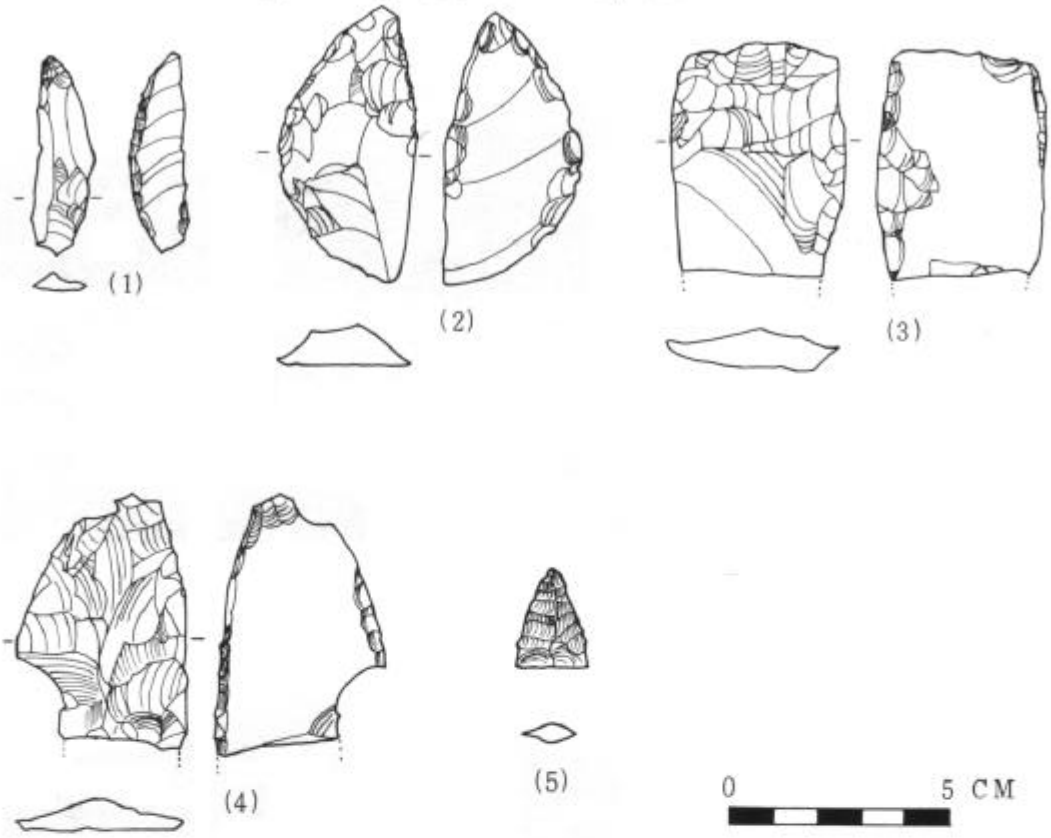
3. ま　と　め

今回の分布調査で新たに周知のものに追加できたのは８遺跡である。これらの遺跡は、周知の遺跡の分布から知られる立地傾向と同じように、雄物川や岩見川を直接的に望める位置に多い。

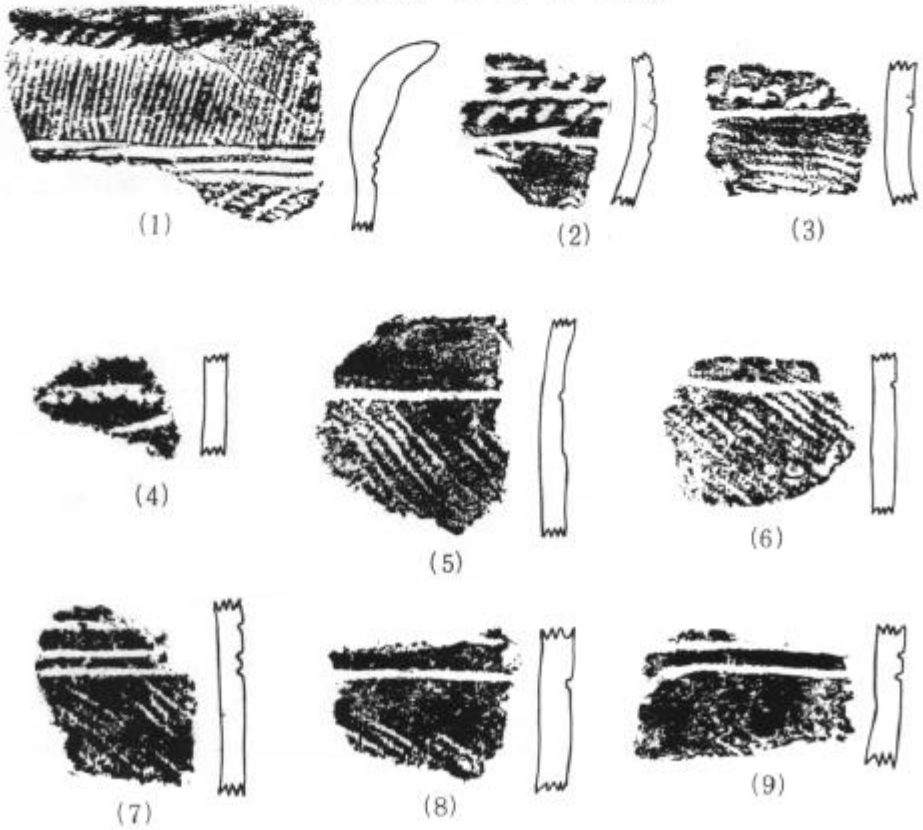
また、本県では比較的発見の少ない旧石器と弥生土器の採集された湯の沢遺跡は、非常に貴重な遺跡といえる。

最後になりましたが、湯の沢遺跡の石器、土器については県教育庁文化課学芸主事富樫泰時氏に色々と御教示をいただきました。記し厚く御礼申しあげます。

挿図 2　湯の沢遺跡の石器



挿図 3　湯の沢遺跡の土器拓影



図版 1

平沢遺跡から
湯の沢遺跡を望む

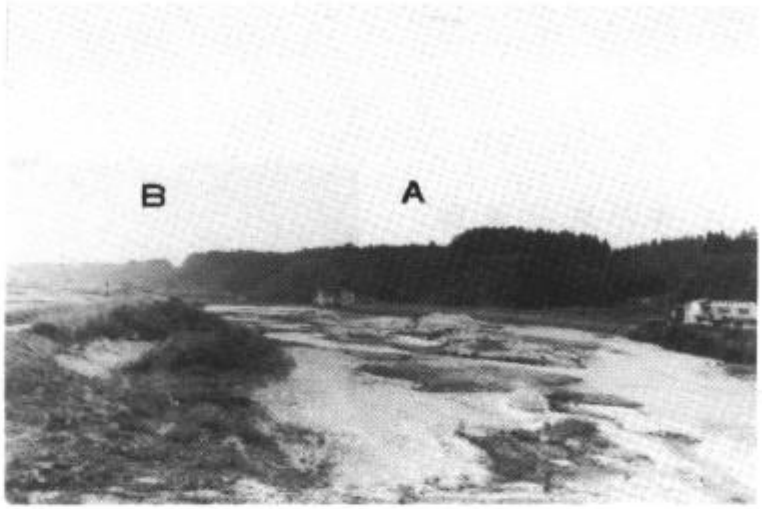
山　田　遺　跡

中　村　遺　跡

図版 2

A　風無台B遺跡

B　七曲台遺跡



風無台B遺跡

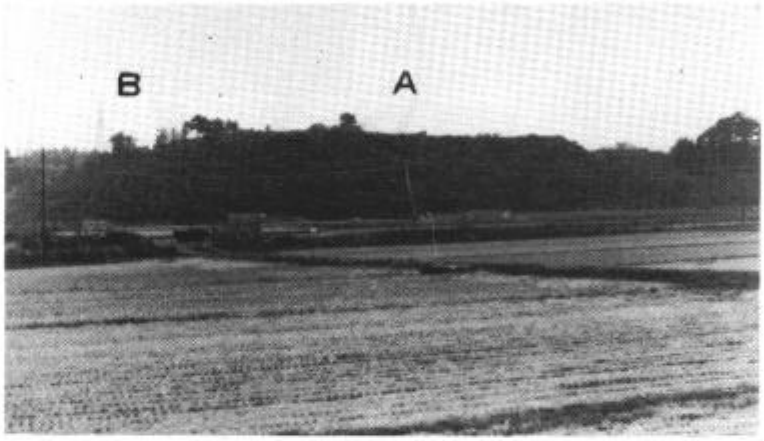
七曲台遺跡

図版 3

井戸尻台遺跡

A　上野台A遺跡

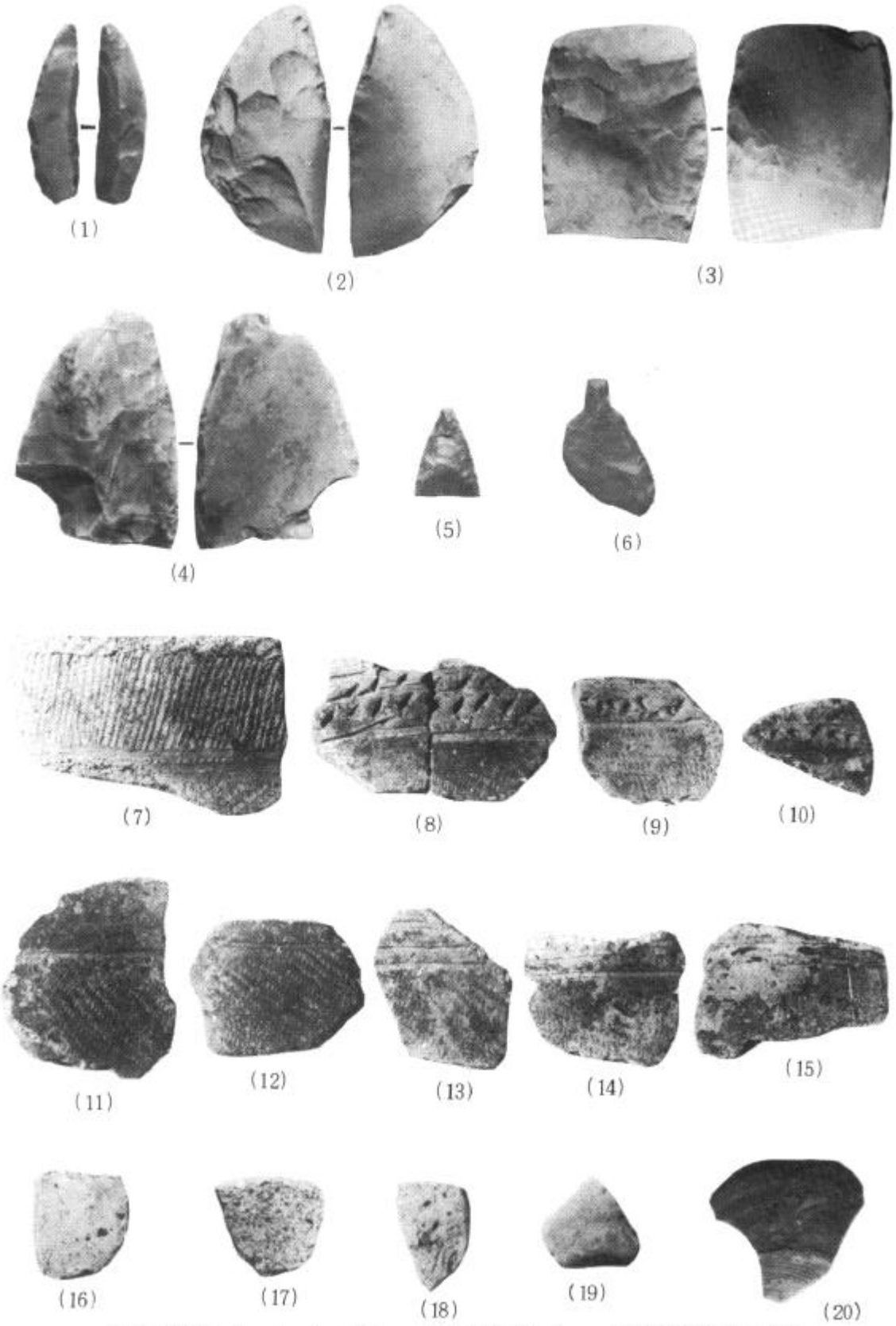
B　上野台B遺跡



上野台A遺跡

上野台B遺跡

図版 4



湯の沢遺跡（ 1～5 、 7～15 ）、 中田遺跡（ 6 ）、 上野台遺跡（ 16～20 ）